

#### 4日目

6時に起床、ちょっと外を歩いて戻ってくると足にヒルが付いていました。昨日はほとんどいなかったのに、昨晚の雨で急に増えてきたようです。地面を見ていると、あっちからもこっちからもヒルが向かってくるのがわかります。今日は入念なヒル除け対策が必要なようです。7時に朝食、7時40分には木登り N.veitchii



のある所に向けて出発。30分ぐらい歩いたところで、N.veitchii がみられました。8時には探索地点に到着。これは Camp から近くていいです。このあたりも木の根元に苔のようなものがびっしりついていて、根元が大きく膨らんでいます。あちこちに N.veitchii が見られますが、小さいものが多く木登り veitchii がありません。



道から外れていろいろ探してみます。少し進むと枯れかかった木登り veitchii がありました。今一つの状態です。また少し行くと少し木登りしている veitchii がありました。木の幹に張り付くようにして木を抱かえこんで木に登っています。葉っぱひっぱっても木からはがれずがっしりと張り付いているのがわかります。この強さだったら木の高い位置まで伸びていけることがわかります。マイクが先にシェルターに帰るけど、11時まではここで探索していいよとのこと。



2時間以上時間があります、さらに先に進むと脇に行ける場所があって、そこを進んでいくと、ありました、みごとな木登り veitchii です。ひと抱え程ある木に張り付いて 2m 以上木登りしています。壺もきれいに並んでいて、500ml のペットボトルくらいの大きさはあります。素晴らしい！！、これが見られただけでも、車で何時間もかけてきて、きつい山登りをした甲斐があります。さらに進むと3本の木にそれぞれ木登り veitchii がついています。見事な光景です。みなでひたすら写真を撮ります。しかし、どうしてこの veitchii は木に登るのでしょうか？ ひとつ気が付いたのは葉っぱの縁が波打っているということです。



N.veitchii は Bario でもみました



が、Bario のは地面を進んでいくタイプです。葉の出方などは同じで、周りに木も生えていますが、木登りはしません。葉っぱのふちもここまでは波打っていなかったような気がします。この葉っぱの波うち構造が木に引っかかって、それで木につかまるように木登りすることになるのではないのでしょうか（個人的感想です）。時間のたつのが早いです、いっぱい写真を撮っていたらあっという間に 11 時になってしまいました。ひとまず昼食のためにシェルターまで戻ることになります。11 時半にはシェルターに着きました。12 時にランチ、雑炊です。おいしい。午後は希望者は片道 2 時間くらい歩いて滝を見に行くとのことです。ちなみにここマリアウベイスンは多くの滝があることで有名で、大多数の観光客は滝を見るためにここに来るとのことです。ネベンテスだけをみて、騒いでいる私たちは、とてもレアな存在だそうです…。私はあまりもう歩くのも嫌だったし、滝よりも木登り veitchii もう一回だったので、マイクに滝にはいかないでもう一回木登り veitchii を見に行くのでいいかと聞いて OK をもらいました。各人検討の結果、若者中心の 3 名が滝を見に行くことに、年配組 3 名がもう一回木登り veitchii を見に行くことになりました。14 時に出発というので、皆は川へ水浴びに、私と T さんはシェルターに残って、私は昼間っからウィスキーを飲んでくつろぎます。14 時に滝見学組は出発。木登り veitchii 組は 14 時 40 分に出発、15 時には木登り veitchii の場所に到着。日差しが変わるとまた違った感じに見えます。またたくさん写真を撮って、少し探索もします。N.reinwardsiana のグリーンタイプが見つかりました。ガイドさんたちとも一緒に写真を撮って、16 時過ぎに名残を惜しんでシェルターに向かいます。16 時半にはシェルターに到着。ほどなくして滝見学組も帰ってきました、若い人たちは歩くのが早い。17 時半から夕食、フライドチキンにナスやキュウリの炒め物、おいしいです。食後はくつろいで、特にすることもないので 7 時過ぎに就寝、Wi-Fi のない生活にも慣れてきました。夜にはまた少し雨が降ったようです。



## 5日目

早く寝たので4時過ぎに目が覚めました。下山する用意をして、5時から朝食。ラーメンにチャーハン、炊き込みご飯と炭水化物系のおいしいご飯です。下山の用意もできて、6時には出発しました。最初だけペースメーカーとして先頭を歩きましたが、15分ほどでリタイア、いつもの最後尾を歩きます。ポーターさんたちは



後からゆっくり出発なので、一人でジャングルの中を歩きます、帰りは、道がわかっているし、下り中心なので一人でも安心して進めます。ネペンテスのはえているところなどで休憩しながら歩きます。途中でポーターさんたちが追い付いてきました。コボイ君です。彼は日本語を習いたいらしくて、英語でいろいろ聞いてきます、あいさつだとか、ゆっくりとか、すごいとか日本語を教えて、こちらマレー語を教えてもらいながら話して歩きました。坂が急になるところに出ました。ここから、長い梯子やロープなどを使ったきつ

い下りになります。まあ、よくこんなきついところを登ったなーと自分に感心しながら急坂を下っていきます。9時半に最初の登り始めたベースキャンプに着きました。登りは6時間、下りは3時間半でした。ここでポーターさんにポーター代を払います。私は3日間で390リングットでした。ポーターさん、本当にありがとう。車のところに戻るとビールが用意されていました。いやー、おいしい。ここでちょっとパスポートが行方不明かと慌てましたが、山にもっていったリュックのポケットに発見して一安心、ぼけていました。皆で集合写真を撮ります。ビールに蜂がいっぱい飛んできます。ポーターさんたちにお礼のあいさつをして、別れます、Selamat Tinggal (スラマツト・ティン・ガル)。10時に車に乗車、このままキナバルのほうに向かいます、今日も6時間の車での移動です。途中、ケニンガフの街を再び通過、渋滞しています。お昼ごはんは、ポークラーメンを食べました。ひたすら車で進んで、3時過ぎにラナウの街まで来ましたが、町でフェスティバルをしているようで大渋滞、何とか渋滞を抜けて、スーパーに寄りました。ここで、明日からの

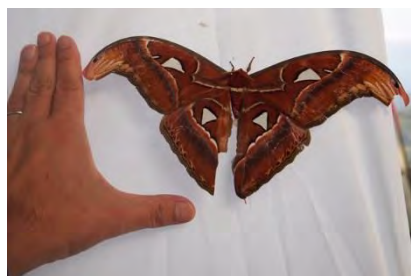
水などを買って、今日宿泊するサバ・ティーガーデンに向かいます。ここは初めて行くところですが、大規模お茶農園が経営するリゾート施設の様です。宿泊はロングハウスに寝るようですが、事前にTさんはネットで調べてきたようで、ロングハウスではなくて、コテージのほうにアップグレードして泊まれないかとマイクに交渉しました。電話で聞いてみると1つコテージが開いているようです。ひとまずそのコテージを押さえてもらいます。17時45分にやっとサバ・ティーガーデンにつ



きました。7時間半以上の車の旅でした。疲れた。管理人にマイクが交渉してくれています、どうも3つコテージが空いているようです。そこで、全員が65リングット追加料金を払ってコテージにとまることにしました。コテージには、エアコンもついていて、温水シャワーもあるし、ベッドで寝られるし、広くてきれいで、非常に快適です。文明の利器のありがたさが身に沁みます。アップグレードは大正解でした。各自洗濯などをして、夕食はガーデン内のレストランへ。中華風料理7皿のごちそうでした。久しぶりにWi-Fiもつながりました。屋根にはヤモリがいっぱい張り付いています。食後はコテージの近くに帰り、ビールを飲んで9時過ぎには寝ました・・・明日からの厳しさも知らずに・・・。

## 6日目

5時半に起床、今日からは簡素な山小屋にとまる予定なので、準備を進めます。6時50分



に昨日のレストランに集合、天気が良くてキナバル山がとてもきれいに見えています。前日にはライトトラップも行ってみたいので多くの蛾がまだ残っていました。マライパライのための書類を書いたり、家に電話したりして、7時から朝食でも準備ができていなくてしばらく待機、日本語を話すガイドが日本人を案内しているようで、私たちのところにも話に来ました。日本にいたことがあるそう



で、とても上手な日本語です。トラスマディー山に登るタンブナンルートが今は閉まっているので、ほかに登れるルートがないかなどの情報を教えてもらいました。7時50分に出発、4輪駆動で進みますが、なんだかどンドン下って行っています…。今日は1000m以上のところに泊まるのに???。しばらく進んでわき道に入って、目の前に大きな山が見えるところに来ました。ここで写真を撮るそうです。なんとその目の前の大きな山が、今日から登るマンタポックだそうです。



皆に緊張が走ります…。まさかあんなに高く遠いところに行くのかと。登るためのベースの村は眼下に見える村です。さらにそこまで下って、あの山に登るなんて嘘でしょ?確か昨日は500mぐらいまで車で行けるような話だったけど…。不安を抱えたまま9時半にベースの村に到着、標高は200mで、すごく暑い。ここでマンタポックのガイドとポーターさんと合流です。近くの湿った草原に *N. ampullaria* が生えています。どおりで暑いわけです。2台のピック

アップトラックでポーターさんと若者組は荷台に乗って、お年寄り組は座席に座って出発です。ものすごいオフロードの道を進みます。アップダウンも険しくて、川も渡ります。これである程度の高さまで行けるのかと置いていたら大間違い、逆にさらに標高を下げてい



ます。山の頂上もはるかに遠くに見える尾根のそのまた裏とかで、とても歩いていけるようには思えません・・・。50分ぐらい進んでさらに下って、川のほとりに出ました。まさかまさ

かと思いましたが、ここから歩いて登るようです、皆の顔に焦りの表情が見えます。でもここまで来てしまったら、もう戻れません。覚悟を決めますが、まずは目の前の100mぐら

いありそうな貧弱なつり橋を渡する必要があります。ワイヤーと金網で作られたつり橋で、歩くところに木の板が置いてありますが、ところどころそれがなかったり、穴が開いていたり

とかなりスリルが味わえるつり橋です。川からも15m以上は高さがありそうです。一回に2名までしか渡れないそうです。順番にゆっくり歩いて渡ります。これは先が思いやられ

ます。しばらく歩いたところで、数件の高床式の家がある村？に出ました。ここで荷物を測ります。16kg。ここから5.5km、約1000m登ることになります。大丈夫でしょうか？ 11時半過ぎに出発、しばらくはなだらかな登りが続きますが、

とにかく暑いし湿気がすごい。汗だくになりながら登ります。暑さですごく体力を奪われます。しかもずっと登り。13時過ぎに少し下って大きな滝のある所に出ました。ここでお昼ごはんです。標高は700m、すでに500m近く登っています。でもまだ半分来ていないそうです、体がもつか？ 塩クエン酸飴をなめて、フライドチキンを何とか食べます。13時40分に出発、ここからはさらにき

ついで崖登りが続きました。ロープをつかんで必死に登ります。まだ気温は暑いですが、もし雨なんか降っていたらとてもこの崖は登れなかったでしょう。15時に3.5km、860mまだあと2km、300m登る必要があります。15時半に4.3km、標高900m、さらに最後のきつい登りが続きます。16時20分やっと今日泊まるシェルターに着きました。きつかった、とにかくよく頑張りました。今までの探検の中で一番きつい登りだったかもしれません。標高は1110m。やはり1000mは登っているようです。シェルターは事前に送られていた写真よりは、立派で、かなり大きいものでした。壁はまったくありませんが、高床式の建物でトタン屋根が付いています。10人は余裕で寝られるし、調理する場所もついています。なんでも木材もトタンも全部人力で下から運んで作ったそうです。すごい。早速各自場所を確保して、シュラフマットを敷いてシュラフを準備して寝られる体制を作ります。しかしこの日の夜は疲れ果てていて、何を食べたかの記憶もありません。明日は、3時半起きの4時半出発だそうです。体力が回復するでしょうか…。



ついで崖登りが続きました。ロープをつかんで必死に登ります。まだ気温は暑いですが、もし雨なんか降っていたらとてもこの崖は登れなかったでしょう。15時に3.5km、860mまだあと2km、300m登る必要があります。15時半に4.3km、標高900m、さらに最後のきつい登りが続きます。16時20分やっと今日泊まるシェルターに着きました。きつかった、とにかくよく頑張りました。今までの探検の中で一番きつい登りだったかもしれません。標高は1110m。やはり1000mは登っているようです。シェルターは事前に送られていた写真よりは、立派で、かなり大きいものでした。壁はまったくありませんが、高床式の建物でトタン屋根が付いています。10人は余裕で寝られるし、調理する場所もついています。なんでも木材もトタンも全部人力で下から運んで作ったそうです。すごい。早速各自場所を確保して、シュラフマットを敷いてシュラフを準備して寝られる体制を作ります。しかしこの日の夜は疲れ果てていて、何を食べたかの記憶もありません。明日は、3時半起きの4時半出発だそうです。体力が回復するでしょうか…。

ついで崖登りが続きました。ロープをつかんで必死に登ります。まだ気温は暑いですが、もし雨なんか降っていたらとてもこの崖は登れなかったでしょう。15時に3.5km、860mまだあと2km、300m登る必要があります。15時半に4.3km、標高900m、さらに最後のきつい登りが続きます。16時20分やっと今日泊まるシェルターに着きました。きつかった、とにかくよく頑張りました。今までの探検の中で一番きつい登りだったかもしれません。標高は1110m。やはり1000mは登っているようです。シェルターは事前に送られていた写真よりは、立派で、かなり大きいものでした。壁はまったくありませんが、高床式の建物でトタン屋根が付いています。10人は余裕で寝られるし、調理する場所もついています。なんでも木材もトタンも全部人力で下から運んで作ったそうです。すごい。早速各自場所を確保して、シュラフマットを敷いてシュラフを準備して寝られる体制を作ります。しかしこの日の夜は疲れ果てていて、何を食べたかの記憶もありません。明日は、3時半起きの4時半出発だそうです。体力が回復するでしょうか…。

ついで崖登りが続きました。ロープをつかんで必死に登ります。まだ気温は暑いですが、もし雨なんか降っていたらとてもこの崖は登れなかったでしょう。15時に3.5km、860mまだあと2km、300m登る必要があります。15時半に4.3km、標高900m、さらに最後のきつい登りが続きます。16時20分やっと今日泊まるシェルターに着きました。きつかった、とにかくよく頑張りました。今までの探検の中で一番きつい登りだったかもしれません。標高は1110m。やはり1000mは登っているようです。シェルターは事前に送られていた写真よりは、立派で、かなり大きいものでした。壁はまったくありませんが、高床式の建物でトタン屋根が付いています。10人は余裕で寝られるし、調理する場所もついています。なんでも木材もトタンも全部人力で下から運んで作ったそうです。すごい。早速各自場所を確保して、シュラフマットを敷いてシュラフを準備して寝られる体制を作ります。しかしこの日の夜は疲れ果てていて、何を食べたかの記憶もありません。明日は、3時半起きの4時半出発だそうです。体力が回復するでしょうか…。

ついで崖登りが続きました。ロープをつかんで必死に登ります。まだ気温は暑いですが、もし雨なんか降っていたらとてもこの崖は登れなかったでしょう。15時に3.5km、860mまだあと2km、300m登る必要があります。15時半に4.3km、標高900m、さらに最後のきつい登りが続きます。16時20分やっと今日泊まるシェルターに着きました。きつかった、とにかくよく頑張りました。今までの探検の中で一番きつい登りだったかもしれません。標高は1110m。やはり1000mは登っているようです。シェルターは事前に送られていた写真よりは、立派で、かなり大きいものでした。壁はまったくありませんが、高床式の建物でトタン屋根が付いています。10人は余裕で寝られるし、調理する場所もついています。なんでも木材もトタンも全部人力で下から運んで作ったそうです。すごい。早速各自場所を確保して、シュラフマットを敷いてシュラフを準備して寝られる体制を作ります。しかしこの日の夜は疲れ果てていて、何を食べたかの記憶もありません。明日は、3時半起きの4時半出発だそうです。体力が回復するでしょうか…。

ついで崖登りが続きました。ロープをつかんで必死に登ります。まだ気温は暑いですが、もし雨なんか降っていたらとてもこの崖は登れなかったでしょう。15時に3.5km、860mまだあと2km、300m登る必要があります。15時半に4.3km、標高900m、さらに最後のきつい登りが続きます。16時20分やっと今日泊まるシェルターに着きました。きつかった、とにかくよく頑張りました。今までの探検の中で一番きつい登りだったかもしれません。標高は1110m。やはり1000mは登っているようです。シェルターは事前に送られていた写真よりは、立派で、かなり大きいものでした。壁はまったくありませんが、高床式の建物でトタン屋根が付いています。10人は余裕で寝られるし、調理する場所もついています。なんでも木材もトタンも全部人力で下から運んで作ったそうです。すごい。早速各自場所を確保して、シュラフマットを敷いてシュラフを準備して寝られる体制を作ります。しかしこの日の夜は疲れ果てていて、何を食べたかの記憶もありません。明日は、3時半起きの4時半出発だそうです。体力が回復するでしょうか…。

ついで崖登りが続きました。ロープをつかんで必死に登ります。まだ気温は暑いですが、もし雨なんか降っていたらとてもこの崖は登れなかったでしょう。15時に3.5km、860mまだあと2km、300m登る必要があります。15時半に4.3km、標高900m、さらに最後のきつい登りが続きます。16時20分やっと今日泊まるシェルターに着きました。きつかった、とにかくよく頑張りました。今までの探検の中で一番きつい登りだったかもしれません。標高は1110m。やはり1000mは登っているようです。シェルターは事前に送られていた写真よりは、立派で、かなり大きいものでした。壁はまったくありませんが、高床式の建物でトタン屋根が付いています。10人は余裕で寝られるし、調理する場所もついています。なんでも木材もトタンも全部人力で下から運んで作ったそうです。すごい。早速各自場所を確保して、シュラフマットを敷いてシュラフを準備して寝られる体制を作ります。しかしこの日の夜は疲れ果てていて、何を食べたかの記憶もありません。明日は、3時半起きの4時半出発だそうです。体力が回復するでしょうか…。